

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和4年4月16日

静岡県知事 川勝 平太 殿

提出者

住所 静岡県富士市新橋町7番1号

氏名 K J 特殊紙株式会社

代表取締役社長 砂川 健

電話番号 0545-52-4075

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	K J 特殊紙株式会社 富士工場
事業場の所在地	静岡県富士市新橋町7番1号
計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

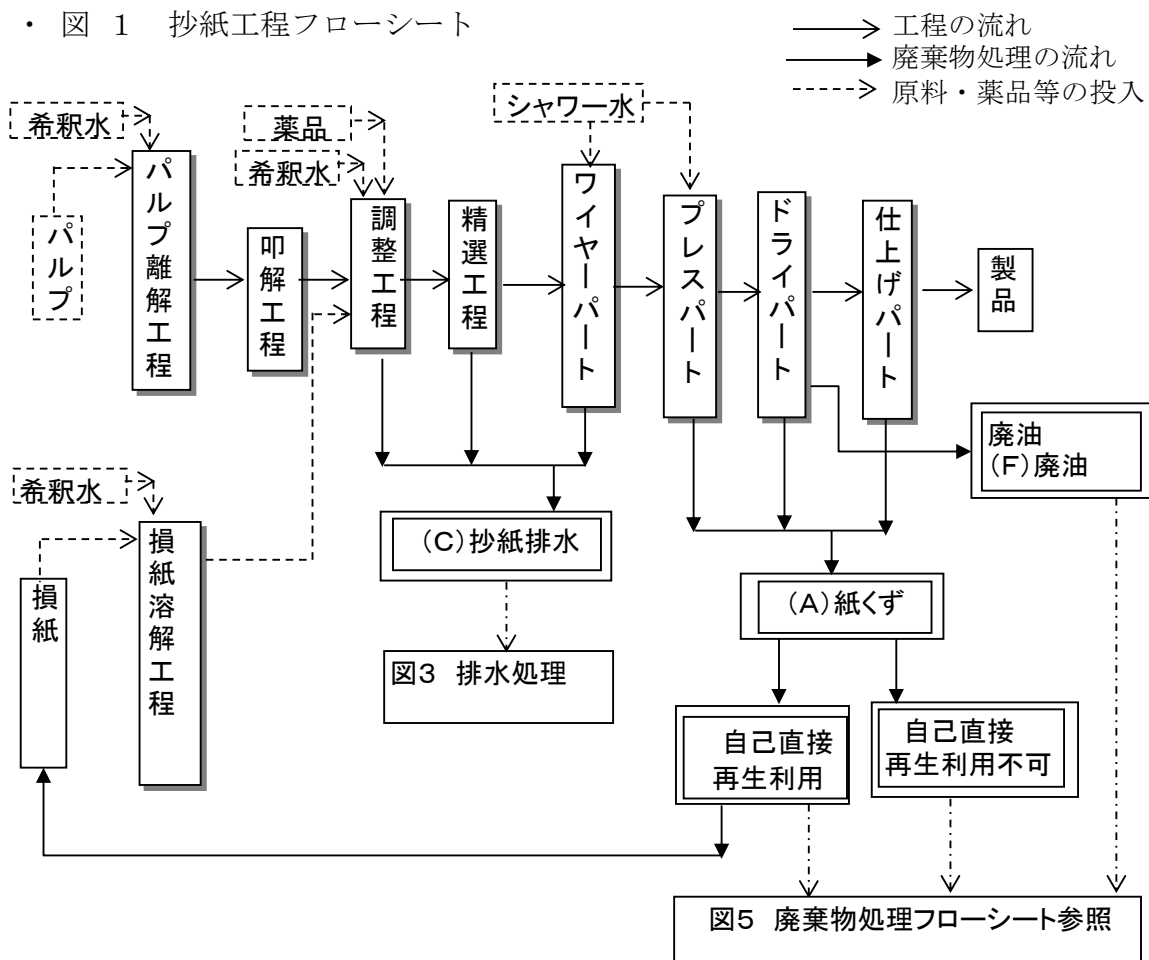
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	パルプ・紙・紙加工品製造業
② 事業の規模	製造品出荷額82.8億円
③ 従業員数	184名 (正社員175名、それ以外の職員9名)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり (別紙1~3)

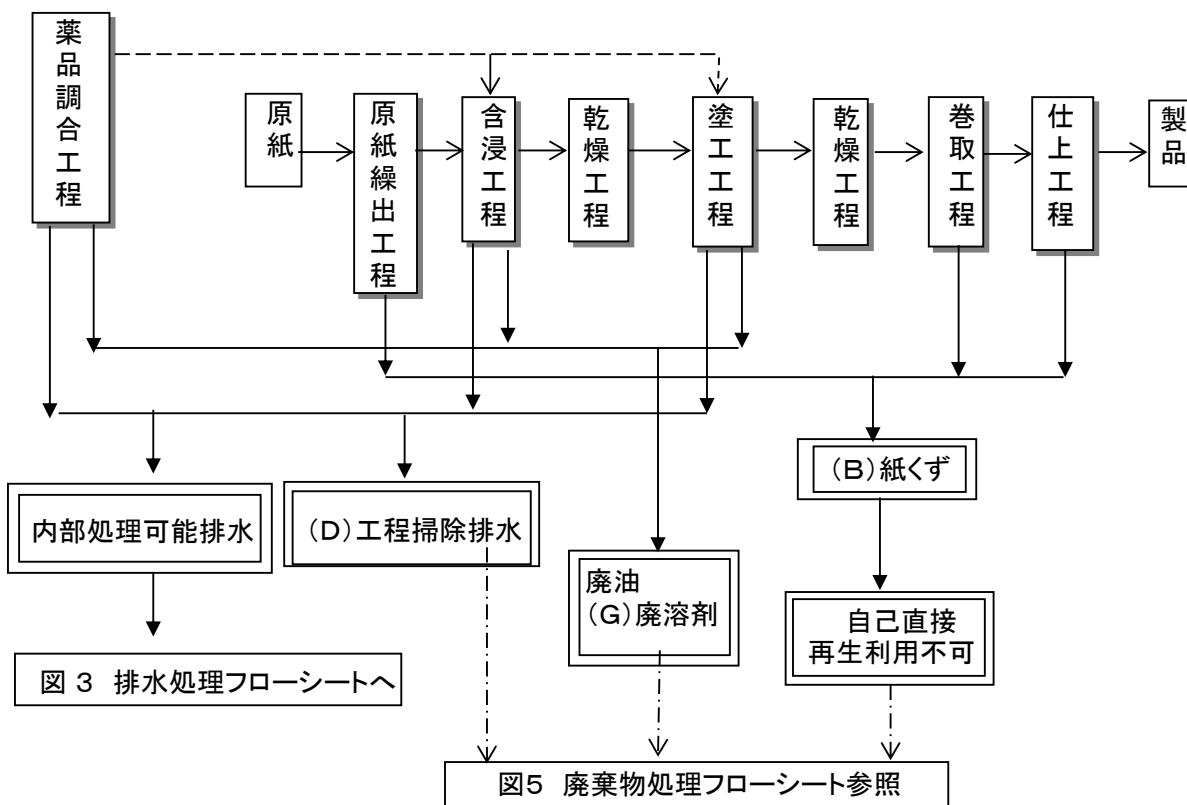
(日本工業規格 A列4番)

<別紙 1> 製造等フロー図 (1/2)

・ 図 1 抄紙工程フローシート

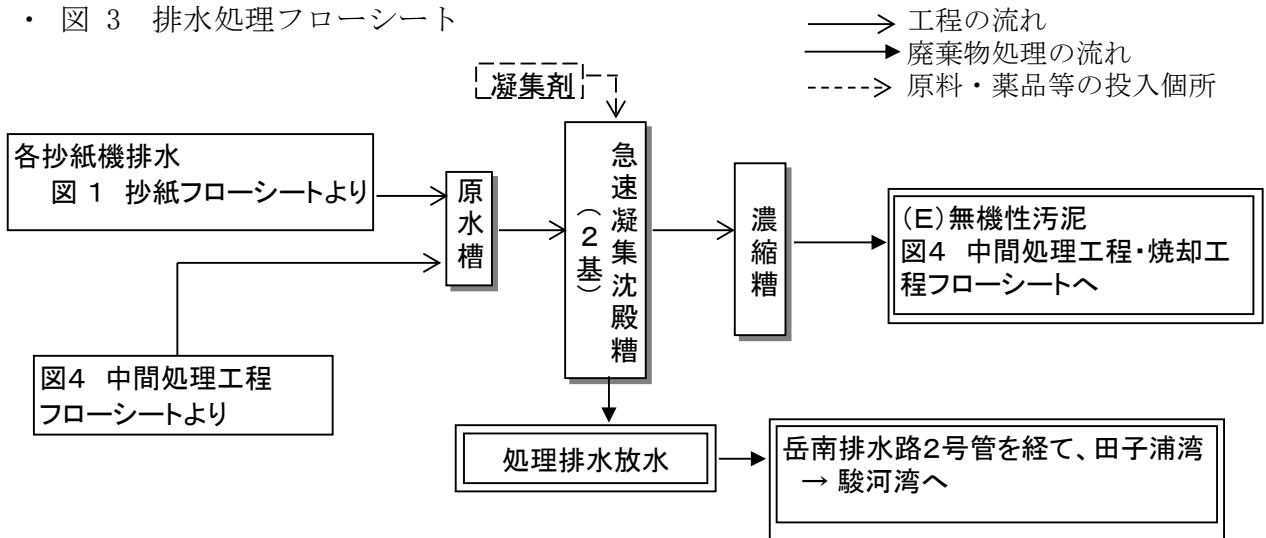


・ 図 2 加工工程フローシート

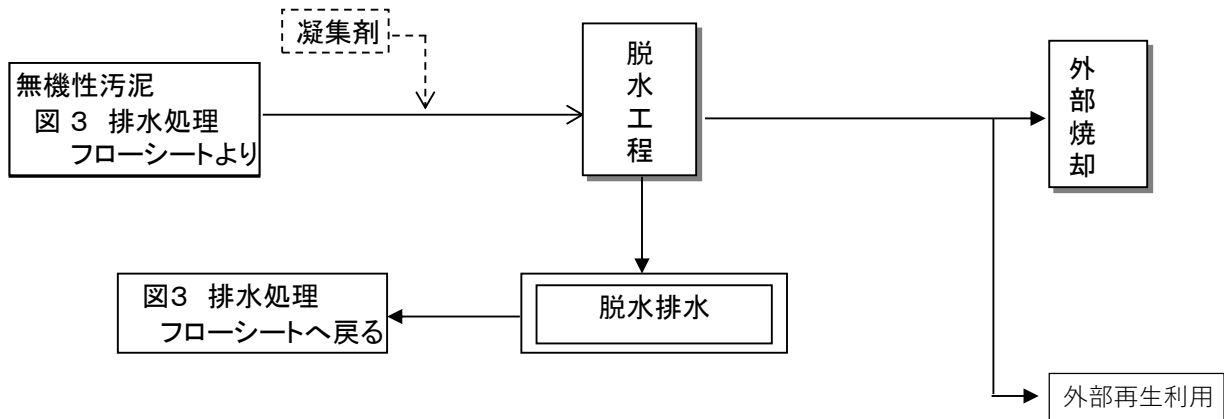


< 別紙 2 > 製造等フロー図 (2/2)

・ 図 3 排水処理フローシート



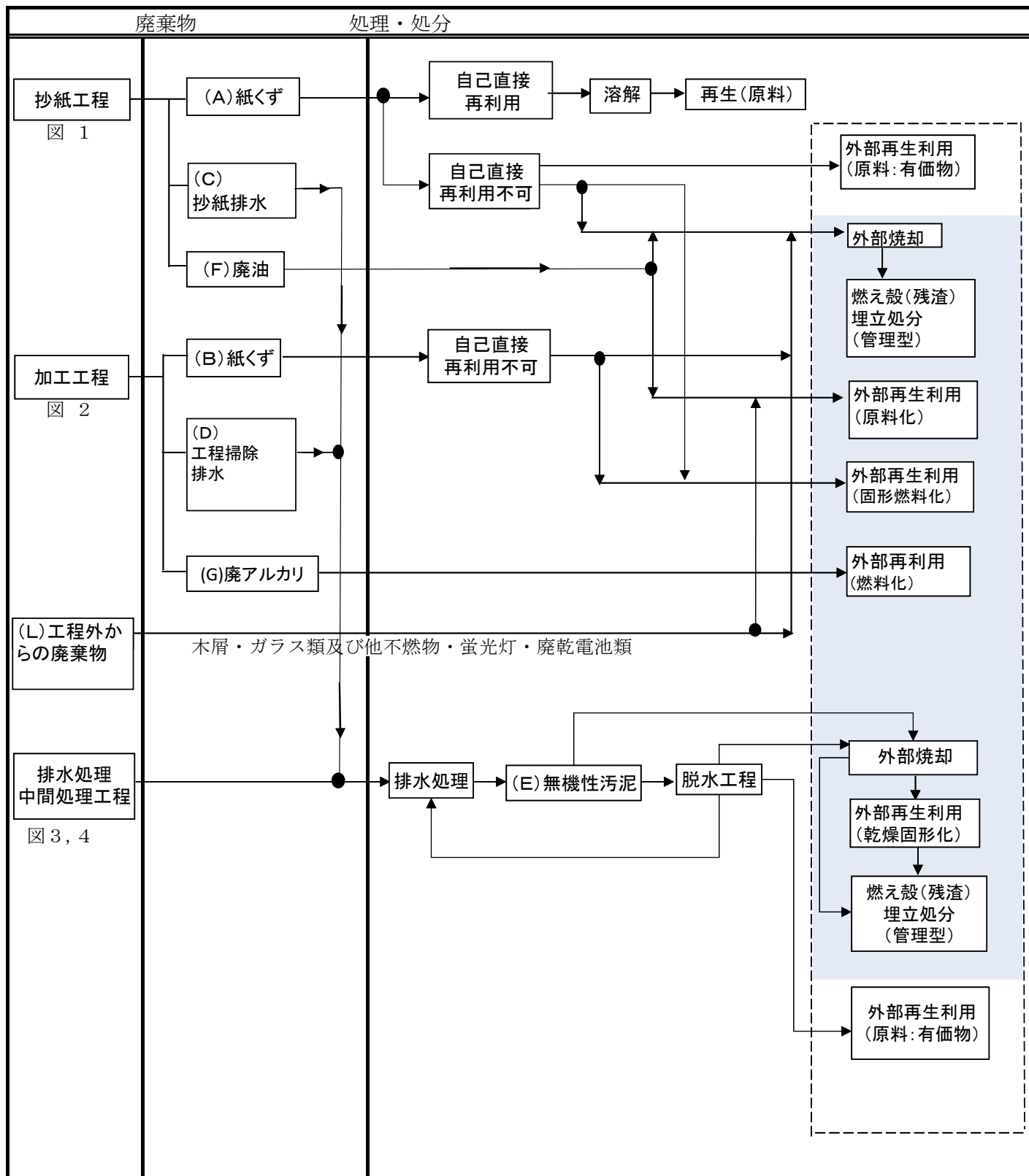
・ 図 4 中間処理工程フローシート



< 別紙 3 >

図 5 廃棄物処理フロー図

—————→ 廃棄物処理の流れ
 - - - - - 委託処理部分の範囲
 (内廃棄物部分)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 別紙のとおり (別紙 4)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (R 3年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙5のとおり	—
	排出量	別紙5のとおり	—
	(これまでに実施した取組) 排出量抑制の為、廃棄物原単位 (廃棄物排出量÷総生産量) で前年度比2%の削減目標を立て取り組んだ。工程内リサイクルの推進や、紙くずの分別強化、段ボール・クラフト紙の売却増加により損紙や紙くずが減少したことに加えて、品種切り替え時の手順を工夫する事等で、汚泥発生率が0.8%減少した。その結果、産廃原単位は前年比8.4%減少した。 引き続き、静岡県「産廃3Rキャンペーン」に参加した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙5のとおり	—
	排出量	別紙5のとおり	—
	(今後実施する予定の取組) 継続的取組として、廃棄物原単位の削減目標を前年度比2%減に設定し、排出量抑制に努める。 実施方針として、工程安定化を図るとともに発生抑制を考慮した製造方法を検討する。 工場不要物の有価物と廃棄物の分別収集を更に推進する。工程内の再利用を推進し、廃棄物発生量を抑制する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・紙類の保管はシートをかぶせる等して雨対策を行った。 ・雨の日は紙ゴミを出さない様に協力を呼び掛けた。 ・分別を分かり易くして売却量増加につなげた。 (クラフト紙と抄紙関係の紙の2つに分けた)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 紙類の分別強化として有価物、RPF、紙くずの分別を各職場ごとに指導をする。

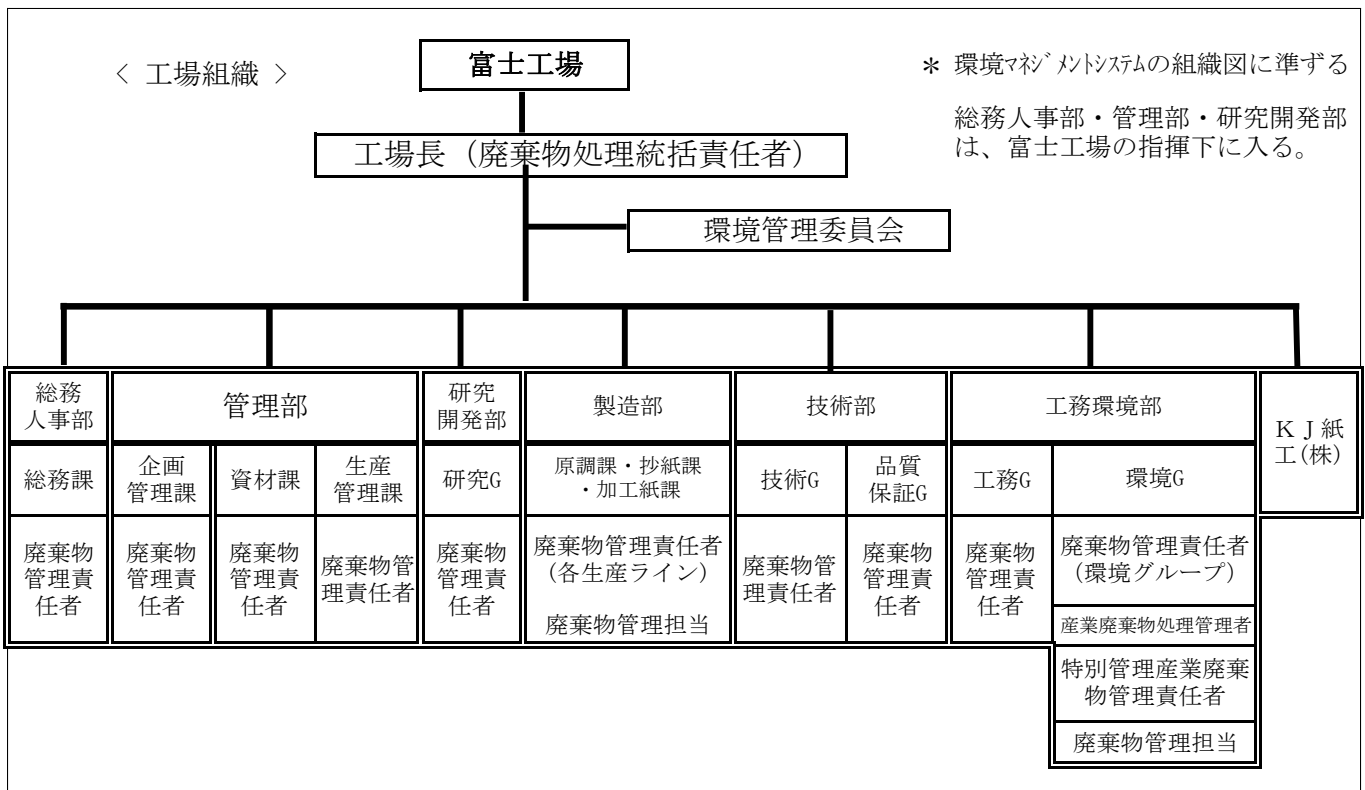
< 別紙 4 >

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 管理体制 (廃棄物処理に関する管理組織等)

統括責任者		所 属：富士工場	役 職：工場長 氏 名：遠藤 隆司
廃棄物担当		組織名：工務環境部環境グループ 組織人数：2人	役 職：グループリーダー 氏 名：柿並 隆二
役 割	環境管理委員会	○廃棄物処理に関する検討 廃棄物の排出抑制、再生利用、減量化、適正処分の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 ・委員長—工場長 ・委員—関連部署部門長 ・事務局—工務環境部環境グループ	
	廃棄物処理統括責任者	○廃棄物処理方針の策定 ○社内廃棄物処理基準の策定・改廃 ○社内産業廃棄物委託処理基準の策定・改廃 ○社員、関連会社に対する教育・啓発 ○廃棄物処理に関する各種事項の承認	
	廃棄物管理担当責任者	○廃棄物処理計画の策定 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○マニフェスト（産業廃棄物処理伝票）の交付・管理 ○特別管理産業廃棄物管理責任者 ○監督官庁への各種報告 ○その他関連する事項	

(2) 管理体制図



< 別紙 5 >

①現状	【前年度（令和3年度）実績】												
	産業廃棄物の種類	紙くず	汚泥	廃油	廃アルカリ	蛍光灯	廃電池類	木屑	廃プラスチック類	ガラス・コンクリート・陶磁器屑・混合物	汚泥脱水なし	廃酸	合計
	排出量	1,292.05t	19,267.94t	1.72t	235.58t	0.24t	0.05t	78.02t	22.91t	6.42t	7.23t	3.87t	20,912.16t
②計画	【目標】												
	産業廃棄物の種類	紙くず	汚泥	廃油	廃アルカリ	蛍光灯	廃電池類	木屑	廃プラスチック類	ガラス・コンクリート・陶磁器屑・混合物	汚泥脱水なし	廃酸	合計
	排出量	1,266.21t	18,882.58t	1.69t	230.87t	0.24t	0.05t	76.46t	22.45t	6.29t	7.09t	3.79t	20,493.93t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（R3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	866.05 t	798.26 t
	(これまでに実施した取組) 工程内リサイクルの実行。工程安定による損紙発生量の低減。 スラッジの自社再利用。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	848.73 t	782.29 t
	(今後実施する予定の取組) スラッジの自社再利用の安定化		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（R3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	17155.94 t
(これまでに実施した取組) 脱水機の安定運転による水分管理の徹底。 脱水工程のメンテナンス実施。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	16812.82 t
(今後実施する予定の取組) 工程安定化を図り、発生抑制に努める。脱水効率の向上による減量化を図る。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（R3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙6のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙6のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（R3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙6のとおり	
	全処理委託量	別紙6のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙6のとおり	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙6のとおり	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙6のとおり	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙6のとおり	t
(これまでに実施した取組) 紙や固形燃料の原材料としての再利用を推進。分別を強化して、再利用を図っている。 各職場から出る廃棄物はそれぞれ個性があるので、職場毎に分別指導を行い分別徹底が以前より出来る様になった。 クラフト紙（売却）の分別が特に管理されるようになり、クラフト紙の売却量が大幅に増加した。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙6のとおり	
	全処理委託量	別紙6のとおり	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙6のとおり	— t
	再生利用業者への処理委託量	別紙6のとおり	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙6のとおり	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙6のとおり	— t
	<p>(今後実施する予定の取組) 発生抑制を図るため、工程の安定化・工程内リサイクルを推進する。また、有価物への分別収集を強化するべく、職場ごとに具体的な分別の仕方を案内し、周知する。</p>		
※事務処理欄			

